



TITLE:

1940年4月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

1940年4月の天象. 天界 1940, 20(227): 232-230

ISSUE DATE:

1940-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167946>

RIGHT:

**太陽** 月初めには“魚星座”の中央部にあらが、益々北進して、18日からは“羊星座”に侵入する。5日の朝、黄経 $15^{\circ}$ で、“清明”の節となり、20日午後には黄経 $30^{\circ}$ 、即ち“穀雨”となる。又、17日からは春の土用に入る。カリントンの太陽自轉期は世界時刻

1940年

## 4月の天象

5.61（日本標準時5日23時39分）から第1158期となる。遊星との関係を言へば、12日には木星と會合し、25日には土星と會合する。又、8日には金環食があるけれど、之れは我が日本には關係無く、美しい現象は北太平洋の東部と、メキシコ國の北部、米國の北部即ちテキサス、ルイジヤナ、ミシシビ、アラバマ、ジョジヤ、フロリダあたりで見えるのみ。マクドナルド天文臺では之れが居ながら觀測される。尤も、しかし、此の日の部分食は、北米の大部分（アラスカを除く）と、北米の北部、それからハワイ、ポリネシア諸群島、マーシャル群島あたりで見える。“平均太陽”は月初めは眞太陽の西、月末は東となるが、中旬の16日には時差はゼロとなる、

**月** 月の初めは下弦を過ぎたばかりで、其の後、暫くは“有り明け月”であるが、8日早朝に新月となり、即ち、ブラウンの月相第214期に入る。15日は“双子”と“蟹”との境界線上で上弦、22日午後には“乙女座”の $\kappa$ 星附近で満月、又、29日午後には、“水瓶座” $\epsilon$ 星の西南で下弦となる。地球からの距離は5日18時に最遠、21日4時が最近である。遊星に對しては、5日22時に水星と會合し、又、8日12時には木星と、9日11時には土星と、10日20時には天王星と、12日4時には火星と金星とに會合し、20日2時には海王星と交はる。尙ほ、本年は、地球の本影による月食は1回も無いけれど、其の代り、半影による月食が2回ある。何れも部分食であるが、其の第1回は、4月22日で、11時27分から始まり、13時26分が食甚、15時25分に終る。最大の食分は8分9厘であるが、之れは、時刻の都合上、我が日本では見えない。

**水星** 月の初めから末まで常に順行しつつ、曉の星として太陽に追従する。12日が東方極大離角で、太陽から $27^{\circ}40'$ も離れるが、高度が低いので、觀測には不便である。

**金星** “宵の明星”として、年初以來、益々其の光輝を増し、位置も高く、毎日の日没後の西天に君臨する。17日21時には最大離角 $45^{\circ}44'$ に達する。晝間と夜間とを問はず、觀望の好期である。11日9時には火星の北 $2^{\circ}11'$ にまで接近、又、12日4時には月と會合する。

**火星** 日没後の西天に赤い光を放ちつつ、11日9時には金星の南 $2^{\circ}11'$ に接近、又、翌12日4時には月と會合する。

**木星** 太陽と殆んど同方向にあつて、12日7時に正しく會合する。8日12日に月と會合するが、重要なものではない。全く觀望不能。

**土星** 木星の東隣にあつて、順行中。25日3時に太陽と會合し、其の後は曉天の星となる。9日11時、月と會合。

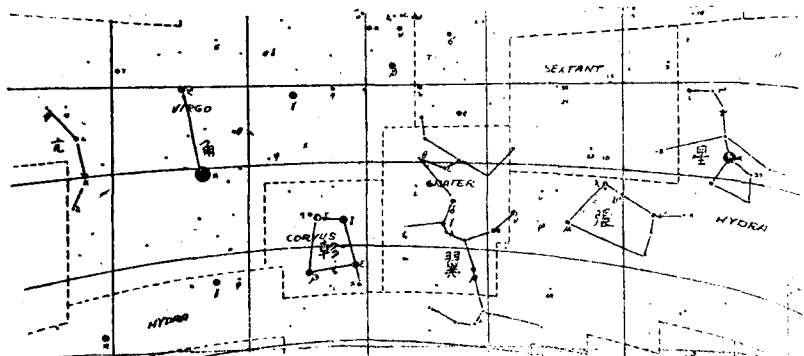
**天王星** 宵の西天の星であるが、高度は低く、距離は遠く、光は淡い。10日20時に月と會合。

**海王星** “乙女座”を逆行中。觀測には良いが、星圖と望遠鏡とが必要である。20日2時に月と會合。

**冥王星** “蟹座” $\lambda$ 星の南に殆んど停留してゐる。日没直後の觀望が良い。但し光度は15等級だから、口径30糎以下の望遠鏡では駄目。

**四月の恒星天** “オリオン”の後を追つかけて、“大犬”も、“小犬”も、“駱者”も、“双子”も皆西へ急ぎつゝあるので、日没後の空は全く春景色となつて了つて、早くも、“大熊”と“獅子”とが頭上に現はれ、“ヒドラ”も、“乙女”も、“牧夫”も見えて来る。東洋の星座と西洋の星座とを見比べて研究するのに好い時期である。

**“二十八宿”の星** 支那の天文學には、黃道に沿つて28ヶの標準星座が作られてある。之れを“二十八宿”といひ、其の順序は、西から東へ、角、亢、氐、房、心、尾、箕、斗、牛、女、虚、危、室、壁、奎、婁、胃、昂、畢、觜、參、井、鬼、柳、星、張、翼、轸である。この28ヶの星宿のうち、春の夕べに見える“星”から“亢”までの位置を、こゝに圖示する。西洋の星座と比べて、どういふ風に作られてゐるかを、知つて貰ひたい。



支那星座の圖 (4)

**正誤** 本誌第221號第(189)頁“昭和15年”曆表中、1月1日己亥は癸卯の誤、大寒31時は13時の誤、社日は3月16日と9月22日の誤、日曜は11月3、10、17、24、12月1、8、15、22、29の誤。

## 四月の天體曆表

日附	七曜	正午月齡	干支	天界現象 (日本標準時)	ユリウス日 (21時)
1	月	23.0	甲戌	興亞奉公日 タイ國の元旦	2429721.0
2	火	24.0	乙亥		722.0
3	水	25.0	丙子	神武天皇祭	723.0
4	木	26.0	丁丑		724.0
5	金	27.0	戊寅	“清明” 月が地球から最遠(18時) 水星と月と會合(22時)	725.0
6	土	28.0	己卯		726.0
7	日	29.0	庚辰	冥王星が西留	727.0
8	月	0.3	辛巳	{ 新月(5時18分) 金環日食(2時17分—8時25分, 太平洋と北米にて) 木星と月と會合(12時)	728.0
9	火	1.3	壬午	土星と月と會合(11時)	729.0
10	水	2.3	癸未	上巳節句 水星が遠日點(18時) 天王星と日と會合(20時)	730.0
11	木	3.3	甲申	金星と火星と會合(9時, 金星が2°11' 北)	731.0
12	金	4.3	乙酉	{ 水星が西方極大離角(28°) 木星が 會合(7時) 金星と月と會合(4時) 火星と月と會合(4時)	732.0
13	土	5.3	丙戌		733.0
14	日	6.3	丁亥		734.0
15	月	7.3	戊子	上弦(22時46分)	735.0
16	火	8.3	己丑		736.0
17	水	9.3	庚寅	春の土用の入り	737.0
18	木	10.3	辛卯	金星が東方極大離角(46°)	738.0
19	金	11.3	壬辰		739.0
20	土	12.8	癸巳	“穀雨” 海王星と月と會合(2時) フィンレイ彗星が近日點通過	742.0
21	日	13.3	甲午	月が地球へ最近(4時)	741.0
22	月	14.3	乙未	満月(13時37分) 歐米方面で半影日食起る	742.0
23	火	15.3	丙申	フェ彗星が近日點通過	743.0
24	水	16.3	丁酉		744.0
25	木	17.3	戊戌	土星が會合(3時)	745.0
26	金	18.3	己亥		746.0
27	土	19.3	庚子		747.0
28	日	20.3	辛丑	夏期時刻始まる(米國)	748.0
29	月	21.3	壬寅	天長節 下弦(16時49分)	749.0
30	火	22.3	癸卯		750.0